情報デザイン科学科だより
Information Design Department
北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和３年度第１号 通巻 186 号

IDDNewsletter 5

2021 May

特集

型にはまるという自由

～情報デザイン科での学びから見えてくること～

今年度もいよいよスタートします。

今年度は３名の新入生を迎えることとなり、昨年と比較し、１名増の所帯となりました。やはり、人数は、決して多いとは言い難いですが、とても新鮮な雰囲気で新年度を迎えました。

今回は、昨年に引き続き、年度の区切りのような特別な機会でなければ著しづらいようなこと、例えば、「デザインとはそもそも何か」といったことについて、少しつきつめて考えてみます。

特集

型にはまるという自由

～情報デザイン科での学びから見えてくること～

今年度もいよいよスタートします。
今年度は３名の新入生を迎えることとなり、昨年と比較し、１名増の所帯となりました。やはり、人数は、決して多いとは言い難いですが、とても新鮮な雰囲気で新年度を迎えました。
今回は、昨年に引き続き、年度の区切りのような特別な機会でなければ著しづらいようなこと、例えば、「デザインとはそもそも何か」といったことについて、少しつきつめて考えてみます。

今年度も、皆様よろしくお願いいたします。

さて、先日読んだ、安藤昭子さんという方が書いた「才能をひらく編集工学」という本がなかなか興味深いものでありました。デザインの分野においても参考になる要素が多くあり、読み応えがありました。「アナロジー」や「アブダクション」といった思考法の具体を展開していく上で必要となる概念の説明も詳細なものですし、具体的に形にしていくときの手法も大いに参考になるのですが、私が一番惹かれたのは、最終章の「オブジェクト指向プログラミング」との関わりの話です。

「…オブジェクト指向とは、システム全体を、現実世界にある物理的なモノに見立てた『オブジェクト』の組み合わせとして捉える考え方です」
「…自分自身の中に属性（プロパティ）や手続き（メソッド）を持っていて、外からメッセージを受け取っては自分の内部で実行してアウトプットする、という働きをします」
「…このオブジェクトの『ふるまい』をオブジェクト同士に相互作用として記述していくのが、オブジェクト指向プログラミングです」
（「才能を開く編集工学」（安藤昭子著）P333 より引用）

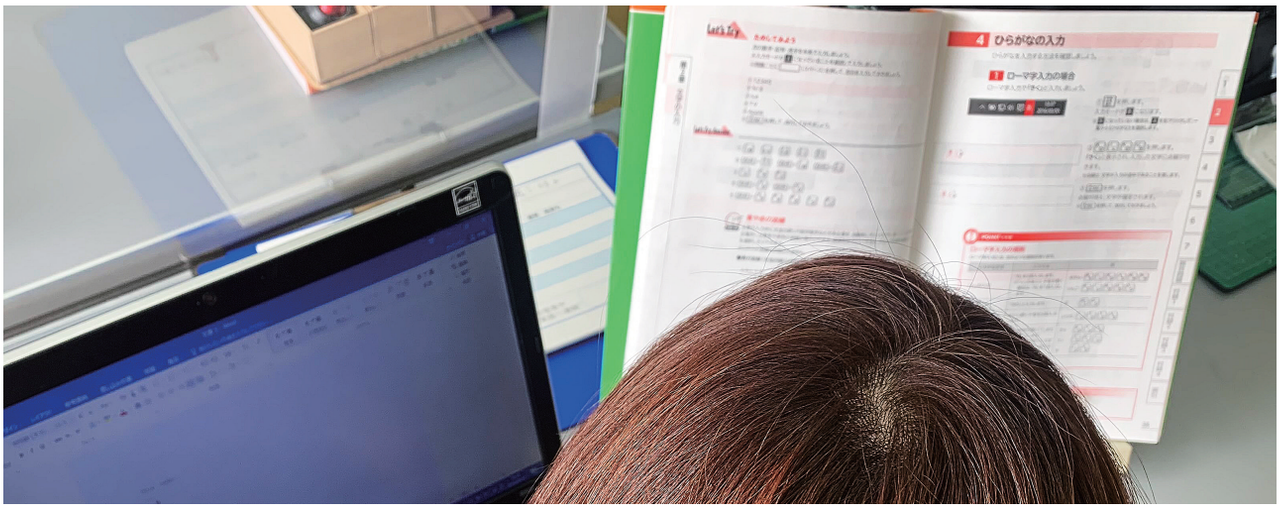
今目に見える世界を映像的に把握するのではなく、言語的な特徴を対象から抽出し、ある共通の属性が把持される範囲を要素として括って、階層的に要素同士の繋がり方を作っていくという人間の思考の方略自体をここでは解説しています。

「思考の方略」は、基本的に見えませんから、何か形あるものに例えて「表現する」必要があるわけです。「対象から属性を見出す」「見いだされた属性で共通のものを一括にする」「一括にしたものに名前をつけて要素にする」「要素間の繋がりをある一定の範囲で俯瞰できるようにする」といった一連の流れは、オブジェクト指向プログラミングが、人間の思考の在り方をどうプログラミングに組み込めるかを追求した結果でもあります。

実はデザイン活動も、それにかなり近い頭の働き方をするところがあります。

例えば、グラフィックデザインの手法の一つに「グリッドシステム」というものがあります。

グリッドシステムでは、予め配置するための基準となるラインを版面上に引いておき、そのライン上に合わせるようにテキストや写真等のオブジェクトを配置していきます。最初に配置する位置をある程度、制約する手法とも換言できるかもしれませんが、そのような技法であるがゆえに、型にはまっ



た堅苦しいデザインであるかのように誤解してしまう人も少なくありません。

しかし、実務における実際では、むしろ逆で、レイアウトグリッドは、変化をつけたいが全体としての統一感を失いたくない時に使われる技法です。つまり、一定の制約を最初にしっかりフレームワークとして作っておくことで、「何をしてよいのかわからない」という呪縛から解放されるわけです。

これは、ある意味、言語活動の本質にも通じるものといえるでしょう。言葉同士の比較は、結局、共通の上位概念が存在するという暗黙の了解の上で成り立ちます。そのことは、前述した編集工学におけるオブジェクト指向の有り様とあまりにも酷似しています。

枠組なしにでも、人間は確かに生きていくことは可能かもしれません。しかし、それが幸せなことかどうかは別問題です。

日本にいる限り実感することは難しいかもしれませんが、世界には国としての枠組みがほとんど機能していない状況に陥っている国や地域も多くあります。極論すれば、枠組がないのですから、それは、「究極の自由」とも言えるのかもしれませんが、その状況は幸福を導くものとは決して言い難いものです。

「ある程度の自由を与えながらも、デザインとしての統一感を保つということ」、それは、思考のベースとなる観点を与えるということであり、自由を得るためのベースとなる型を得ることです。

学生の皆さんには、「思考する」というデザイン活動の本質に触れ、「個性」「自分らしさ」といった、現代の学校ではいささか軽みを伴う言葉に惑わされることのないようにしてください。ある区切られた範囲における属性の継承者として、そして、新たな属性を付け加えることで要素を拡張していくクリエイターとして、皆さんの未来は拓けています。そのために必要な要素を自分の中にどれだけ取り入れ、構造化することができるのか。そのことに皆さんの未来がかかっていると言っても過言ではないでしょう。幸運を祈ります。

IDDN

Contents

特集
型にはまるという自由
2-3 **〜情報デザイン科での学びから見えてくること〜**
今年度もいよいよスタートします。
今年度は３名の新入生を迎えることとなり、昨年と比較し、１名増の所帯となりました。やはり、人数は、決して多いとは言い難いですが、とても新鮮な雰囲気で新年度を迎えました。
今回は、昨年に引き続き、年度の区切りのような特別な機会でなければ著しづらいようなこと、例えば、「デザインとはそもそも何か」といったことについて、少しつきつめて考えてみます。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

今年度もまた各月ごとに発行して参りたいと思います。皆様、温かく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

今年度は３名の新入生が入学してきました。２学年と合わせて４名となります。昨年度より１名増となり、いつもと少し違った新鮮な雰囲気を感じることができます。

情報デザイン科ではデザインの専門的で実践的な知識と技術を身に付けさせ、社会で活躍できる人材を育成するべく、スタッフ一同、力を合わせて指導して参ります。

◯入学説明会の御案内

専攻科情報デザイン科では、次年度の入学説明会を６月４日金曜日より、オンデマンド配信で行うことを予定しております。

詳細については、後ほど Web ページ上で情報を公開し、公開した旨の御案内を各関係機関に電子メール等にて送付させていただきます。

美術・デザイン等の造形分野の学習に興味を持たれている高等学校や高等部に現在在籍する方、または過年度生の方がいらっしゃいましたら、ぜひ御参加いただければと存じます。

また、説明会の開催に合わせ、個別の教育相談等の御希望がございましたら対応いたしますので、お気軽に御相談いただければと存じます。

また、高等学校または高等部１年生、２年生の方の御参加も歓迎いたします。

皆様の御参加をお待ちしております。

［お問い合わせ先］
北海道高等聾学校　専攻科情報デザイン科
電子メール　koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp
電話 0134-62-2624　ファックス 0134-62-2663
（担当：中、桑原）

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department
IDDNewsletter
May 2021 5

IDD**Newsletter**　May 2021

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム
発行／北海道高等聾学校
〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。